

I. 住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

1. 住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

1世帯あたり世帯人員2.05人

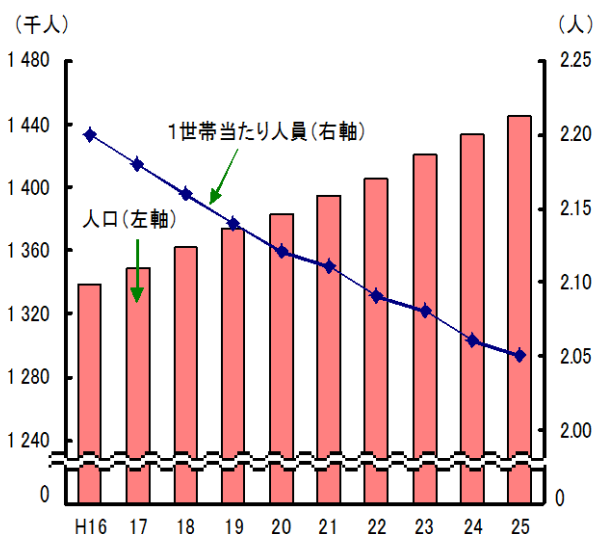
世帯規模の縮小化続く

住民基本台帳に基づく平成25年9月末現在の福岡市の日本人人口は1,444,783人で前年（平成24年9月末現在）に比べ12,251人増加し、増加率は0.9%となっています。世帯数は705,454世帯で、前年に比べ10,942世帯増加し、増加率は1.6%となりました。

性別に見ると、男性は684,982人で、前年と比べて5,449人増加し（対前年増加率0.8%）、女性は759,801人となり、前年と比べて6,802人の増加（同0.9%）となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は90.2で、前年同比となりました。

1世帯あたり人員は2.05人で、前年比0.01人の減少となりました。人口・世帯数ともに増加傾向にあります。世帯数の伸びが人口の伸びを上回っているため、1世帯あたり人員は減少が続き、世帯規模の縮小化が続いています。

図1 人口及び1世帯あたり人員の推移



(2) 行政区別人口

人口・世帯数ともに都心部で最も増加

行政区別に見ると、人口は城南区以外の区で増加、世帯数は全ての区で増加しています。人口は東区の286,578人が最も多く、次いで南区，早良区の順になっています。世帯数は，東区の133,304世帯が最も多く，以下，南区，博多区と続いており，人口，世帯数ともに最も少ないのは城南区となっています。人口増加数は，博多区の2,712人が最も多く，次いで西区の2,649人とな

表1 世帯数及び人口等の推移

(各年9月末現在)

年	世帯数		人口				男		女		性比	1世帯当たり人員
		前年増加率			前年増加率							
	世帯	%	人		%	人		人		人		人
平成16年	608 510	1.6	1 337 576		0.8	639 168		698 408		91.5		2.20
17年	618 034	1.6	1 347 823		0.8	642 842		704 981		91.2		2.18
18年	630 866	2.1	1 361 060		1.0	648 387		712 673		91.0		2.16
19年	642 514	1.8	1 372 840		0.9	652 935		719 905		90.7		2.14
20年	652 282	1.5	1 382 563		0.7	656 798		725 765		90.5		2.12
21年	662 040	1.5	1 394 017		0.8	662 176		731 841		90.5		2.11
22年	671 525	1.4	1 404 525		0.8	667 402		737 123		90.5		2.09
23年	683 885	1.8	1 419 311		1.1	674 197		745 114		90.5		2.08
24年	694 512	1.6	1 432 532		0.9	679 533		752 999		90.2		2.06
平成25年	705 454	1.6	1 444 783		0.9	684 982		759 801		90.2		2.05

っており、城南区は27人の減少となりました。世帯増加数も、博多区が2,525世帯と最も多く、西区が1,922世帯で続いています。

性比を見ると、博多区が94.8と最も高く、次いで東区の94.7で、他の区と比べて男性の割合が多くなっています。最も低い中央区(79.1)、続く南区(88.7)は他の区と比べて女性の割合が多いことが分かります。1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.31人で、以下、早良区、東区の順になっており、都心部に位置する中央区(1.74人)と博多区(1.75人)は、福岡市全体の2.05人を下回っています。

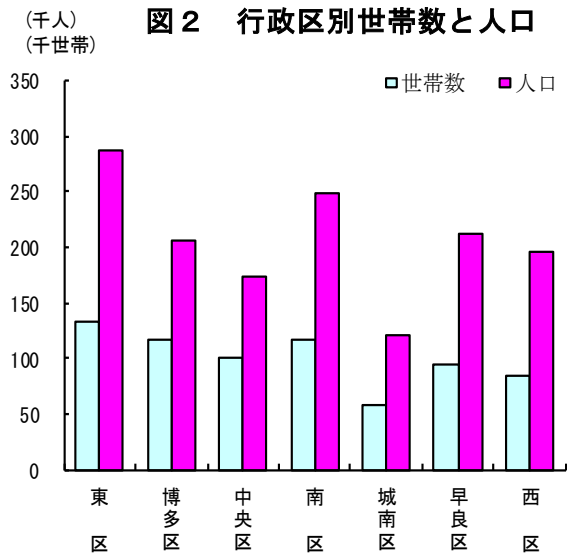


表2 行政区別世帯数及び人口

市・区	平成24年				平成25年													(各年9月末現在)				
	世帯数		人 口		世帯数		増加率		人 口		増加率		構成比		男		女		性比	1世帯当 たり人員	面積	人口 密度
	世帯	人	世帯	%	人	%	%	%	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
福岡市	694 512 1	432 532	705 454	1.6	1 444 783	0.9	100.0	684 982	759 801	90.2	2.05	341.70	4 228									
東 区	131 434	284 623	133 304	1.4	286 578	0.7	19.8	139 358	147 220	94.7	2.15	68.36	4 192									
博多区	114 933	202 822	117 458	2.2	205 534	1.3	14.2	100 028	105 506	94.8	1.75	31.47	6 531									
中央区	97 710	170 474	99 595	1.9	172 998	1.5	12.0	76 403	96 595	79.1	1.74	15.16	11 411									
南 区	115 892	246 869	117 495	1.4	248 830	0.8	17.2	116 961	131 869	88.7	2.12	30.98	8 032									
城南区	57 198	121 615	57 623	0.7	121 588	△0.0	8.4	57 654	63 934	90.2	2.11	16.02	7 590									
早良区	94 223	211 928	94 935	0.8	212 405	0.2	14.7	100 630	111 775	90.0	2.24	95.88	2 215									
西 区	83 122	194 201	85 044	2.3	196 850	1.4	13.6	93 948	102 902	91.3	2.31	83.83	2 348									

注) 面積は平成25年10月1日現在

人口密度は、中央区が11,411人/㎤と最も高く、早良区が2,215人/㎤と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

生産年齢人口割合の低下が続く

福岡市の平均年齢は、男性が41.0歳、女性が43.9歳、全体は42.5歳となり前年に比べ0.2歳上昇しました。

年齢区分別の構成比を見ると、福岡市全体の15歳未満の「年少人口」の割合は13.9%となり、前年と比べ0.1ポイント低下、15～64歳の「生産年齢人口」の割合は67.0%で、前年と比べ0.7ポイント低下し、65歳以上の「老年人口」の割合は19.0%で、前年と比べて0.7ポイント上昇しました。

行政区別に見ると、年少人口の割合が福岡市全体の割合(13.9%)より高いのは、西区、早良区、東区及び南区で、生産年齢人口の割合が福岡市全体の割合(67.0%)より高いのは中央区と博多区、老年人口の割合が福岡市全体の割合(19.0%)より高いのは、城南区、南区、西区、早良区及び東区となっています。

年齢構成指数を見ると、「年少人口指数(生産年齢人口100に対する年少人

表 3 年齢階級別人口及び平均年齢

(平成25年 9 月末現在)

年 齢 (5 歳階級)	福岡市			東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
	総 数	男	女							
総 数	1 444 783	684 982	759 801	286 578	205 534	172 998	248 830	121 588	212 405	196 850
0 ～ 4 歳	70 259	35 990	34 269	14 814	9 509	7 262	12 089	5 614	10 403	10 568
5 ～ 9	65 688	33 596	32 092	14 178	7 547	6 107	11 251	5 498	10 703	10 404
10 ～ 14	65 325	33 397	31 928	13 635	7 074	5 992	11 544	5 646	11 260	10 174
15 ～ 19	67 565	34 188	33 377	14 034	8 050	6 399	11 879	6 140	10 956	10 107
20 ～ 24	82 749	39 267	43 482	16 352	14 718	10 732	13 018	7 231	10 798	9 900
25 ～ 29	101 892	48 234	53 658	18 454	20 807	16 328	16 094	7 363	11 978	10 868
30 ～ 34	111 219	53 493	57 726	20 697	19 427	16 716	18 167	8 193	14 191	13 828
35 ～ 39	120 097	58 520	61 577	23 498	18 372	16 222	20 258	9 486	16 517	15 744
40 ～ 44	118 112	57 919	60 193	23 274	16 765	15 016	20 299	9 590	17 013	16 155
45 ～ 49	97 760	47 693	50 067	19 121	13 070	12 406	17 076	8 043	14 623	13 421
50 ～ 54	86 341	42 074	44 267	16 906	11 422	10 567	15 236	7 293	13 312	11 605
55 ～ 59	83 390	40 671	42 719	16 679	10 848	9 314	14 752	7 297	13 248	11 252
60 ～ 64	99 289	47 829	51 460	20 138	12 848	10 657	17 480	9 017	15 528	13 621
65 ～ 69	80 881	37 624	43 257	16 184	10 555	8 630	14 317	7 299	12 610	11 286
70 ～ 74	65 481	28 624	36 857	13 295	8 295	6 688	11 786	5 980	9 942	9 495
75 ～ 79	52 603	21 482	31 121	10 358	6 680	5 579	9 581	4 926	7 891	7 588
80 ～ 84	39 180	14 424	24 756	7 643	4 916	4 269	7 268	3 620	5 946	5 518
85 ～ 89	23 589	7 279	16 310	4 605	2 976	2 680	4 314	2 153	3 535	3 326
90 ～ 94	9 982	2 137	7 845	2 026	1 260	1 061	1 805	906	1 438	1 486
95 ～ 99	2 865	490	2 375	590	339	318	510	242	441	425
100歳以上	516	51	465	97	56	55	106	51	72	79
平均年齢	42. 5	41. 0	43. 9	42. 3	41. 6	42. 2	43. 1	43. 4	42. 9	42. 5
(区…男)				40. 9	40. 3	40. 8	41. 5	41. 7	41. 4	40. 9
(区…女)				43. 7	42. 8	43. 2	44. 6	45. 0	44. 2	44. 0

表 4 年齢別（3 区分）人口

(各年 9 月末現在)

年 齢 区 分	平成24年	平 成 25 年							
	福岡市	福岡市	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
年 少 人 口 (15歳未満)	200 197	201 272	42 627	24 130	19 361	34 884	16 758	32 366	31 146
構成比 (%)	14. 0	13. 9	14. 9	11. 7	11. 2	14. 0	13. 8	15. 2	15. 8
生産年齢人口 (15～64歳)	969 907	968 414	189 153	146 327	124 357	164 259	79 653	138 164	126 501
構成比 (%)	67. 7	67. 0	66. 0	71. 2	71. 9	66. 0	65. 5	65. 0	64. 3
老 年 人 口 (65歳以上)	262 428	275 097	54 798	35 077	29 280	49 687	25 177	41 875	39 203
構成比 (%)	18. 3	19. 0	19. 1	17. 1	16. 9	20. 0	20. 7	19. 7	19. 9

口の比率)」は20.8,「老年人口指数(生産年齢人口100に対する老年人口の比率)」は28.4となっています。この二つを合わせた,生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は49.2で,前年に比べ1.5ポイント上昇しています。また,生産年齢人口の影響を受けないため,高齢化を敏感に示す「老年化指数(年少人口に対する老年人口の割合)」は136.7で,前年より5.6ポイント上昇しています。

平成2年からの推移を見ると,総人口は増加しているものの,総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は低下し,一方で,老年人口の割合は大きく上昇しており,福岡市においても

高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」(5歳階級)を見ると,第1次ベビーブーム世代(1947~49年生まれ)を含む60歳代前半と,第2次ベビーブーム世代(1971~74年生まれ)を含む30歳代から40歳代前半の人口が多く,19歳以下の人口が特に少ないことが分かります。

行政区別に見ても,概ね同じ傾向にあります,都心部に位置する博多区や中央区と,周縁部の西区や早良区とを比べると,年齢構成の違いにより,ピラミッドの形も異なっていることが分かります。

《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

図3 年齢別(3区分)人口(構成比)
(平成25年9月末現在)

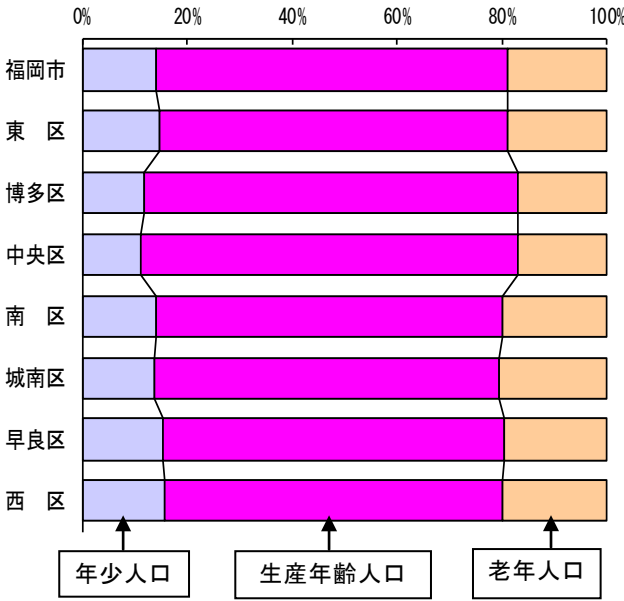
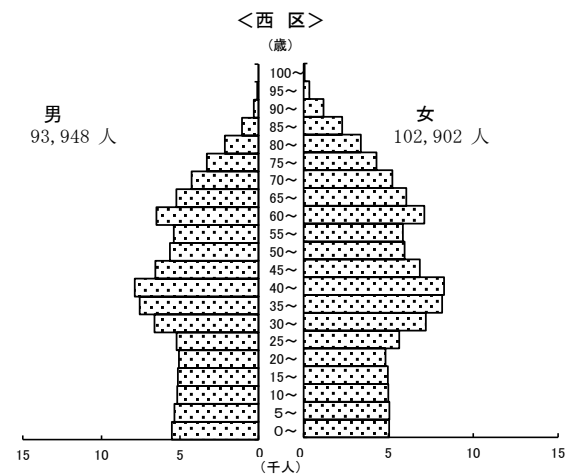
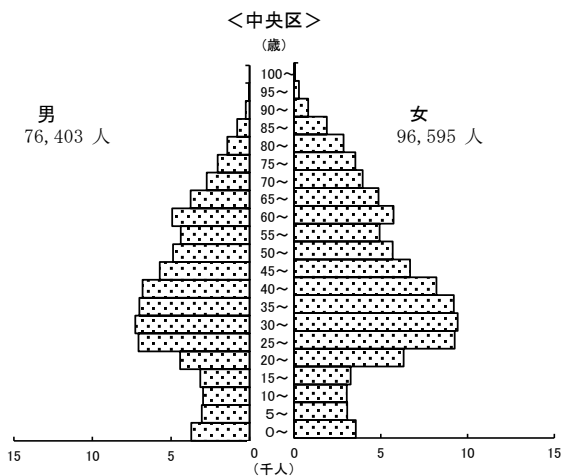
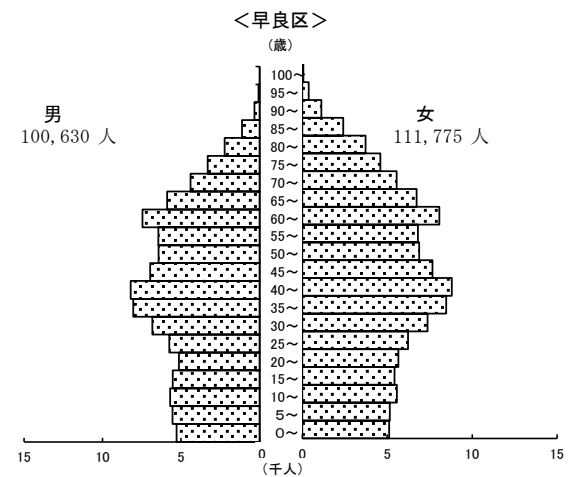
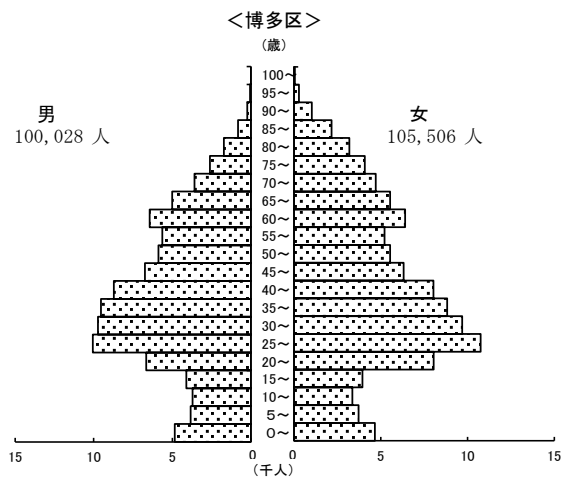
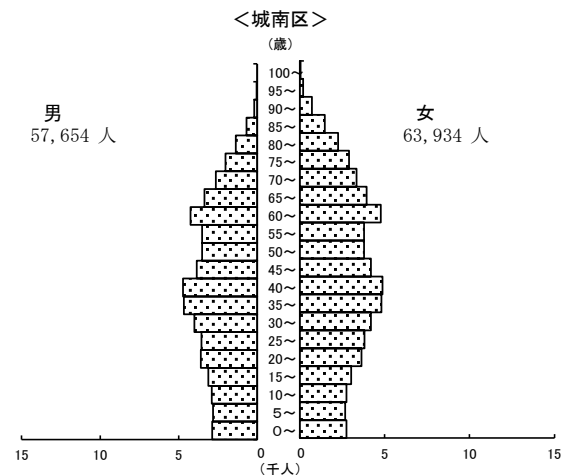
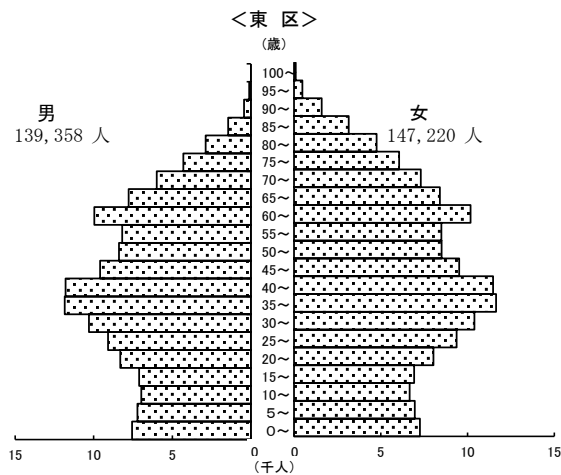
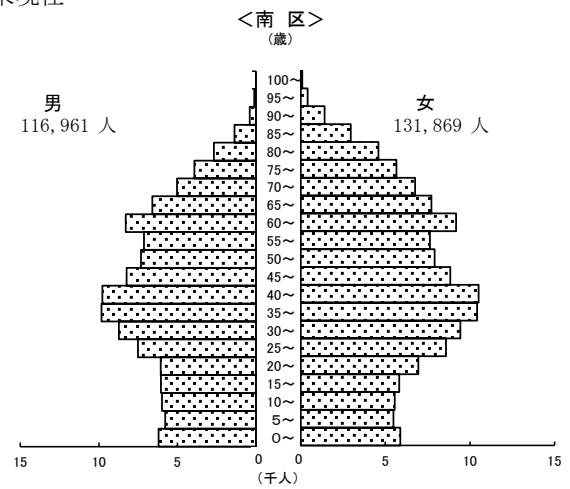
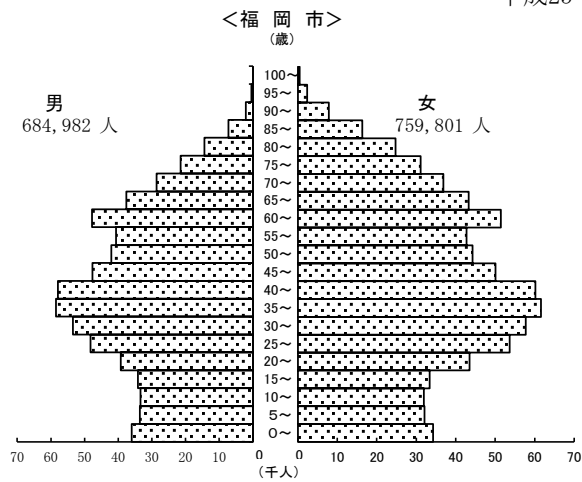


表5 平均年齢, 年齢3区分構成比及び年齢構成指数の推移

年	平均年齢 (歳)	人口総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口		年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
			構成比		構成比		構成比					
平成2年	35.3	1 197 989	230 546	19.2%	856 772	71.5%	110 671	9.2%	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	1 238 762	204 554	16.5%	895 018	72.3%	139 190	11.2%	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	1 291 542	190 824	14.8%	927 609	71.8%	173 109	13.4%	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	1 347 823	189 398	14.1%	950 768	70.5%	207 657	15.4%	19.9	21.8	41.8	109.6
22年	41.9	1 404 525	196 457	14.0%	962 620	68.5%	245 448	17.5%	20.4	25.5	45.9	124.9
24年	42.3	1 432 532	200 197	14.0%	969 907	67.7%	262 428	18.3%	20.6	27.1	47.7	131.1
25年	42.5	1 444 783	201 272	13.9%	968 414	67.0%	275 097	19.0%	20.8	28.4	49.2	136.7

図4 人口ピラミッド（5歳階級）

平成25年9月末現在



(4) 小学校区別人口

女性比率上位5校区は全て中央区

小学校通学区域別に見ると、人口が最も多いのは平尾校区(中央区)の21,780人で、以下、博多区の博多校区(20,132人)、博多区的那珂校区(19,642人)と続いています。人口が最も少ないのは曲淵校区(早良区)の176人で、次いで西区の小呂校区、東区の勝馬校区となっています。

人口増加数は、塩原校区(南区)の1,243人増が最も多く、以下、西区の玄洋校区(875人増)、那珂校区(839人増)となっています。

人口増加率は、塩原校区の10.8%が最も高く、次いで千早校区(東区)の8.1%、玄洋校区の7.1%と続いています。

性比を見ると、男性の比率が最も高い

のは、宮松校区(東区)の109.6で、次いで吉塚校区(博多区)の109.1となっています。一方、女性の比率が最も高いのは、警固校区(中央区)の69.8で、上位5校区を中央区が占めています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口割合が最も高いのは照葉校区(東区)の33.4%で、次いで金武校区(西区)の24.6%となっています。生産年齢人口割合は、東住吉校区(博多区)の81.6%が最も高く、上位4校区は都心部の博多区と中央区に位置しています。老年人口割合は、曲淵校区の43.8%が最も高く、次いで城浜校区(東区)の40.9%が続いています。

老年化指数は、曲淵校区が855.6と最も高く、次いで志賀島校区(東区)の670.2、城浜校区の466.1が続いています。

表6 校区別人口各種比較(上位5校区)

(平成25年9月末現在)

【人口総数】				【人口増加数】				【人口増加率】			
校 区 (行政区)	人口	男	女	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	人		人	人	%		人	人	%
平尾(中央)	21 780	9 278	12 502	塩原(南)	12 717	1 243	10.8	塩原(南)	12 717	1 243	10.8
博多(博多)	20 132	9 375	10 757	玄洋(西)	13 121	875	7.1	千早(東)	10 041	752	8.1
那珂(博多)	19 642	9 883	9 759	那珂(博多)	19 642	839	4.5	玄洋(西)	13 121	875	7.1
住吉(博多)	18 250	8 680	9 570	千早(東)	10 041	752	8.1	大名(中央)	4 586	270	6.3
香住丘(東)	17 466	8 685	8 781	周船寺(西)	14 177	618	4.6	金武(西)	5 948	346	6.2

【性比－男性が多い】				【性比－女性が多い】				【老年化指数】			
校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人			人	人			人	人	
宮松(東)	7 060	6 443	109.6	警固(中央)	7 002	10 025	69.8	曲淵(早良)	77	9	855.6
吉塚(博多)	5 190	4 758	109.1	平尾(中央)	9 278	12 502	74.2	志賀島(東)	630	94	670.2
松島(東)	8 968	8 372	107.1	福浜(中央)	2 279	3 069	74.3	城浜(東)	1 524	327	466.1
東光(博多)	4 103	3 845	106.7	赤坂(中央)	4 744	6 380	74.4	大名(中央)	945	244	387.3
香椎下原(東)	6 851	6 457	106.1	高宮(中央)	5 129	6 829	75.1	千代(博多)	2 361	636	371.2

【年少人口割合】				【生産年齢人口割合】				【老年人口割合】			
校 区 (行政区)	人口	年少人口	年少人口割合	校 区 (行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合	校 区 (行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%		人	人	%		人	人	%
照葉(東)	5 216	1 744	33.4	東住吉(博多)	8 825	7 197	81.6	曲淵(早良)	176	77	43.8
金武(西)	5 948	1 462	24.6	春吉(中央)	11 946	9 452	79.1	城浜(東)	3 723	1 524	40.9
三苦(東)	9 278	1 804	19.4	高宮(中央)	11 958	9 331	78.0	志賀島(東)	1 627	630	38.7
千早(東)	10 041	1 928	19.2	堅粕(博多)	9 988	7 773	77.8	能古(西)	736	271	36.8
原北(早良)	7 832	1 503	19.2	大楠(南)	10 054	7 739	77.0	福浜(中央)	5 348	1 949	36.4

2. 人口動態（平成25年1～12月）

(1) 自然動態

自然増加数 増加に転じる

平成25年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数14,731人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）は10.20‰（パーミル）、死亡数は10,854人、死亡率（同死亡数）は7.51‰で、自然増加数は両者の差の3,877人、自然増加率（同自然増加数）は、2.68‰となりました。

平成24年と比較すると、出生数は前年と比べ252人増加（前年比1.7%増）、死亡数も前年と比べて151人増加（前年比1.4%増）しました。自然増加数は、平成22年以降減少が続いていましたが、前年比101人の増加（前年比2.7%増）に転じました。

行政区別に見ると、出生率は博多区の11.22‰が最も高く、次いで西区、東区の順になっています。死亡率は南区の

7.88‰が最も高く、以下、城南区、東区が続いています。自然増加率が最も高いのは、博多区の3.82‰で、最も低いのは城南区の1.77‰でした。

福岡市でも高齢化が進んでおり、今後、死亡数が増加していくことが予想されることから、出生数の動向が自然動態を左右すると考えられます。

表7 自然動態の推移

	出生数	死亡数	自然増加	
			実数	率
	人	人	人	‰
H16	12 978	8 510	4 468	3.34
17	12 542	8 762	3 780	2.80
18	13 255	8 915	4 340	3.19
19	13 921	9 104	4 817	3.51
20	13 977	9 654	4 323	3.13
21	14 207	9 341	4 866	3.49
22	14 506	10 158	4 348	3.10
23	14 385	10 459	3 926	2.77
24	14 479	10 703	3 776	2.64
25	14 731	10 854	3 877	2.68

表8 自然動態

市・区	平成24年			平成25年					
	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	3 776 (2.64)	14 479 (10.11)	10 703 (7.47)	3 877 (2.68)	2.7	14 731 (10.20)	1.7	10 854 (7.51)	1.4
東 区	867 (3.05)	3 041 (10.68)	2 174 (7.64)	766 (2.67)	△ 11.6	2 995 (10.45)	△ 1.5	2 229 (7.78)	2.5
博多区	786 (3.88)	2 293 (11.31)	1 507 (7.43)	785 (3.82)	△ 0.1	2 306 (11.22)	0.6	1 521 (7.40)	0.9
中央区	514 (3.02)	1 610 (9.44)	1 096 (6.43)	592 (3.42)	15.2	1 689 (9.76)	4.9	1 097 (6.34)	0.1
南 区	568 (2.30)	2 456 (9.95)	1 888 (7.65)	493 (1.98)	△ 13.2	2 453 (9.86)	△ 0.1	1 960 (7.88)	3.8
城南区	58 (0.48)	1 012 (8.32)	954 (7.84)	215 (1.77)	270.7	1 169 (9.61)	15.5	954 (7.85)	0.0
早良区	474 (2.24)	2 089 (9.86)	1 615 (7.62)	442 (2.08)	△ 6.8	2 030 (9.56)	△ 2.8	1 588 (7.48)	△ 1.7
西 区	509 (2.62)	1 978 (10.19)	1 469 (7.56)	584 (2.97)	14.7	2 089 (10.61)	5.6	1 505 (7.65)	2.5

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

全ての区で転入超過

平成25年の社会動態(市外との転出入の数)は、転入者数が72,646人で転入率（人口1,000人当たりの転入者数）50.28‰、転出者数64,707人の転出率（同転出者数）44.79‰、両者の差である社会増加数は7,939人で、社会増加率（同社会増加数）は5.49‰となっています。

平成24年と比較すると、転入者数は1,031人減少（対前年増加率△1.4%）、転出者数は82人減少（同△0.1%）し、社会増加数は949人減少（同△10.7%）しましたが、平成8年以降転入超過の状態が続いています。

行政区別に見ると、転入者数が最も多いのは博多区の15,288人で、次いで東区、中央区となっています。転出者数は博多区の12,986人が最も多く、以下、東区、中央区となっており、社会増加数は中央区の2,382人が最も多くなり

ました。平成24年に引き続き、全ての区で転入超過となりました。

各区の人口動態の構成を見ると、都心部に位置する中央区と博多区は、特に社会増加数の割合が高いことが分かります。

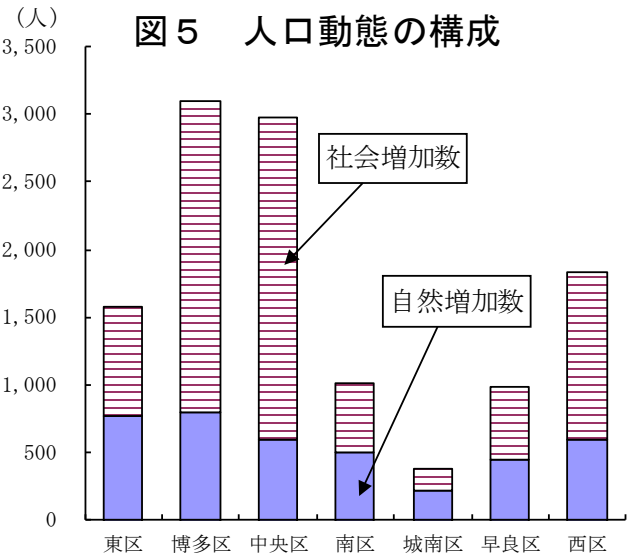


表9 社会動態（市外移動）

市・区	平成24年			平成25年					
	社会 増加数	転入者数	転出者数	社会 増加数	増加率	転入者数	増加率	転出者数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	8 888 (6.20)	73 677 (51.43)	64 789 (45.23)	7 939 △ (5.49)	10.7	72 646 △ (50.28)	1.4	64 707 △ (44.79)	0.1
東 区	843 (2.96)	13 179 (46.30)	12 336 (43.34)	804 △ (2.81)	4.6	13 211 (46.10)	0.2	12 407 (43.29)	0.6
博多区	2 348 (11.58)	15 225 (75.07)	12 877 (63.49)	2 302 △ (11.20)	2.0	15 288 (74.38)	0.4	12 986 (63.18)	0.8
中央区	2 362 (13.86)	12 611 (73.98)	10 249 (60.12)	2 382 (13.77)	0.8	12 499 △ (72.25)	0.9	10 117 △ (58.48)	1.3
南 区	959 (3.88)	10 535 (42.67)	9 576 (38.79)	507 △ (2.04)	47.1	10 199 △ (40.99)	3.2	9 692 (38.95)	1.2
城南区	111 (0.91)	4 716 (38.78)	4 605 (37.87)	160 (1.32)	44.1	4 505 △ (37.05)	4.5	4 345 △ (35.74)	5.6
早良区	788 (3.72)	8 827 (41.65)	8 039 (37.93)	541 △ (2.55)	31.3	8 444 △ (39.75)	4.3	7 903 △ (37.21)	1.7
西 区	1 477 (7.61)	8 584 (44.20)	7 107 (36.60)	1 243 △ (6.31)	15.8	8 500 △ (43.18)	1.0	7 257 (36.87)	2.1

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。

3. 人口移動状況(平成25年1～12月)

(1) 福岡都市圏との人口移動

転出超過数増加 人口流出が続く

福岡都市圏との人口移動状況は、転入者は12,711人で、前年と比べて23人減少(対前年増加率△0.2%)し、転出者は13,426人で、前年と比べて133人増加(同1.0%)しました。転入と転出の差で715人の転出超過となり、福岡市外の福岡都市圏への転出超過(人口流出)が続いています。

平成21年からの推移を見ると、転入者

数は減少傾向、転出者数も平成23年までは減少が続いていましたが、平成24年以降は2年連続での増加となりました。転出超過数は、平成23年までは減少していましたが、平成24年以降は転入者数の減少、転出者数の増加に伴い、緩やかに増加しています。

地域別の移動状況を見ると、筑紫地域との人口移動が最も多く、次いで糟屋地域、糸島市、宗像地域の順になっています。転入と転出の差では、糟屋地域、宗像地域は転出超過、糸島市、筑紫地域は転入超過となっています。

図6 福岡都市圏との
転入・転出者数の推移

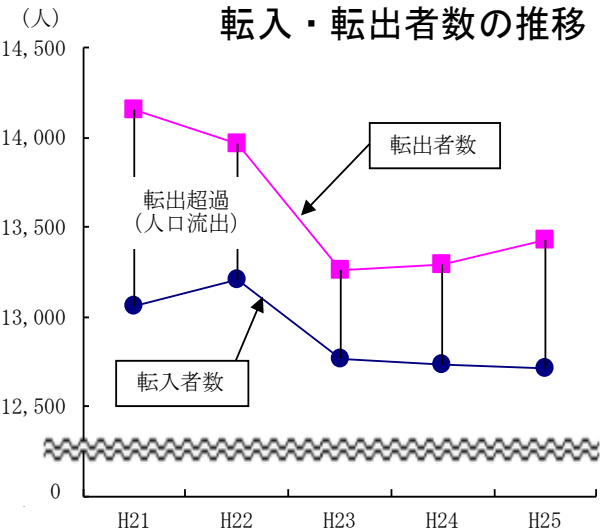


図7 福岡都市圏(地域別)
転入超過数の推移

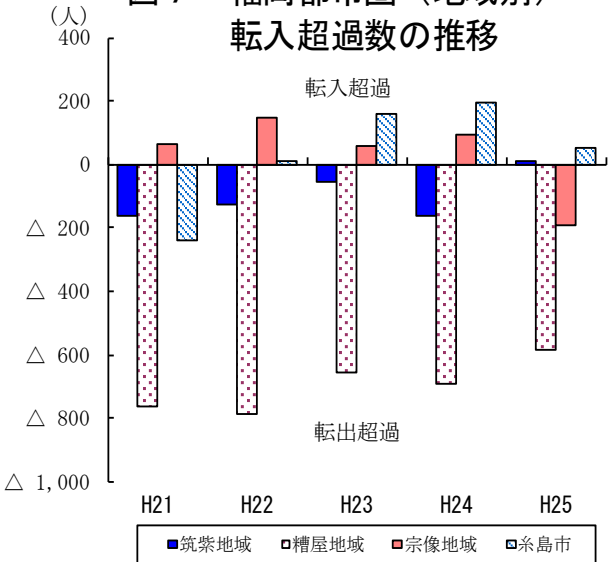


表10 福岡都市圏との人口移動状況

地 域	平成23年			平成24年			平成25年					
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	増加率	転出	増加率	転入超過 (△は転出超過)	
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人	
計	12 770	13 261	△ 491	12 734	13 293	△ 559	12 711	△ 0.2	13 426	1.0	△ 715	
筑紫地域	5 779	5 831	△ 52	5 826	5 986	△ 160	5 836	0.2	5 823	△ 2.7	13	
糟屋地域	4 099	4 757	△ 658	4 028	4 720	△ 692	4 097	1.7	4 685	△ 0.7	△ 588	
宗像地域	1 283	1 224	59	1 267	1 170	97	1 119	△ 11.7	1 312	12.1	△ 193	
糸 島 市	1 609	1 449	160	1 613	1 417	196	1 659	2.9	1 606	13.3	53	

注) 筑紫地域…筑紫野市, 春日市, 大野城市, 太宰府市, 那珂川町 糟屋地域…古賀市, 宇美町, 篠栗町, 志免町, 須恵町, 新宮町, 久山町, 粕屋町
宗像地域…宗像市, 福津市

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方との移動が約6割

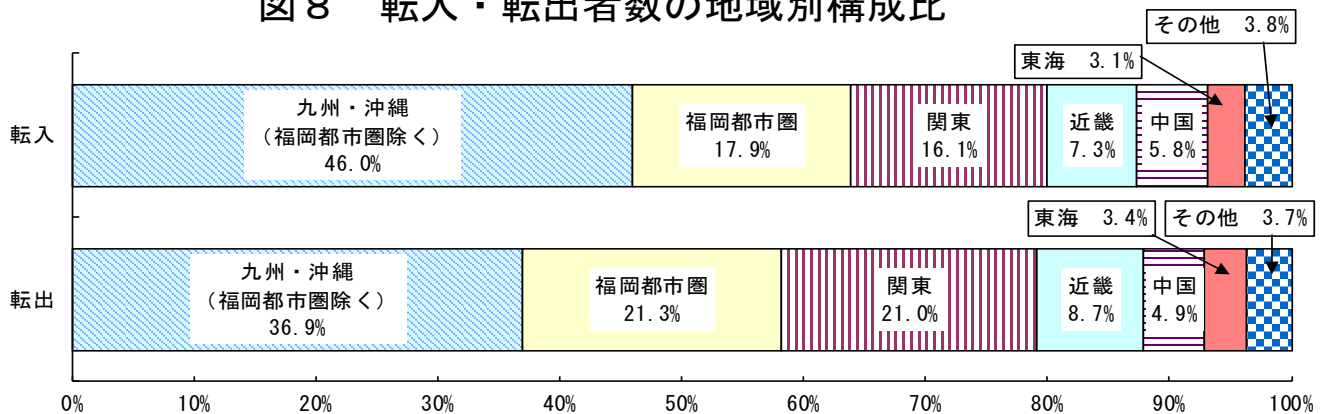
全国地方別に移動状況を見ると、九州・沖縄地方との人口移動が最も多く、転入者は45,450人（対前年増加率0.7%）で、転出者は36,738人（同△0.5%）となり、8,712人の転入超過となりました。次いで関東地方との人口移動が多く、転入者が11,475人（同△8.8%）で転出者が13,282人（同2.3%）となり、1,807人の転出超過となりました。以下、近畿地方、中国地方、東海地方と続いています。

す。平成24年と比較すると、九州・沖縄地方からの転入超過数は465人の増加、関東地方への転出超過数は1,412人の増加となりました。

また、転入者数・転出者数ともに、九州・沖縄地方との移動が約6割、関東地方との移動が約2割を占めています。

平成25年の福岡市の人口移動の特徴としては、九州・沖縄地方からは流入し、福岡都市圏と関東地方へ流出していると言えます。

図8 転入・転出者数の地域別構成比



注) 国外、住所不明を除く

表11 地方別転入・転出者数

地 方	平 成 23 年			平 成 24 年			平 成 25 年						
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転 入		増 加 率	転 出		増 加 率	転入超過 (△は転出超過)
							人	%		人	%		
総 数	74 252	63 513	10 739	73 677	64 789	8 888	72 646	100.0	△ 1.4	64 707	100.0	△ 0.1	7 939
北 海 道	483	478	5	505	476	29	505	0.7	—	418	0.6	△ 12.2	87
東 北	837	422	415	713	629	84	659	0.9	△ 7.6	590	0.9	△ 6.2	69
関 東	13 957	12 485	1 472	12 584	12 979	△ 395	11 475	15.8	△ 8.8	13 282	20.5	2.3	△ 1 807
北陸甲信越	552	523	29	560	567	△ 7	581	0.8	3.8	534	0.8	△ 5.8	47
東 海	2 023	2 138	△ 115	2 179	2 203	△ 24	2 179	3.0	—	2 176	3.4	△ 1.2	3
近 畿	5 314	5 299	15	5 276	5 406	△ 130	5 213	7.2	△ 1.2	5 512	8.5	2.0	△ 299
中 国	4 194	3 273	921	4 202	3 206	996	4 126	5.7	△ 1.8	3 114	4.8	△ 2.9	1 012
四 国	1 000	790	210	1 048	847	201	956	1.3	△ 8.8	772	1.2	△ 8.9	184
九州・沖縄	44 684	36 731	7 953	45 152	36 905	8 247	45 450	62.6	0.7	36 738	56.8	△ 0.5	8 712
国 外	1 206	1 374	△ 168	1 457	1 567	△ 110	1 502	2.1	3.1	1 571	2.4	0.3	△ 69
住所不明	2	—	2	1	4	△ 3	—	—	皆減	—	—	皆減	—

注1) 東北地方…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 東海地方…岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 近畿地方…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方…鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 四国地方…徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄地方…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注2) 都道府県別の転入・転出者数、福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97,98ページに掲載